

令和2年度 3学期始業式 挨拶

令和3年1月12日（火）

おはようございます。いよいよ令和3年がスタートしました。冬休み中の事故の報告もなく、こうして3学期の始業式を迎えられることが出来、嬉しく思います。

年明けの講座は、悪天候のため中止となりましたが、この冬休み中、講座や部活動に励む皆さんの姿を見せてもらいました。それぞれが目標に向かって努力する姿に、改めて本高生の意欲と能力の高さを感じました。皆さんの夢が叶うことを心から応援します。

さて、今年は昨年とうって変わり、全国の日本海側はもちろん、県内でも例年の4～5倍の大雪となっています。北国の冬の厳しさを改めて実感しています。大雪以外でも、年末から年始にかけて様々なニュースがありました。どうしても新型コロナ関連のニュースが中心になってしまいます。首都圏では緊急事態宣言も出されましたが、県内でも感染が広がりつつあります。これまで通り、皆さん一人ひとりがしっかり予防対策を心掛けて生活を送ってください。

新型コロナ関連以外でも、私の印象に残っているニュースがあります。

1つは、皆さんはもう見たかもしれませんが、映画「鬼滅の刃」が、国内映画の興行収入1位になったことです。国内の5人に1人が見ている計算となる状況には、ただ驚くばかりです。

2つ目は、惑星探査機「はやぶさ2号」が小惑星りゅうぐうから試料を持ち帰ったことです。太陽系や生命誕生の謎ときに期待がふくらみます。

3つ目は、正月2日・3日に行われた箱根駅伝です。今年は沿道での応援自粛があったせいか、テレビの視聴率が歴代1位になったそうです。駒澤大学の最終10区の選手が、ずっとトップを走ってきた創価大学の選手を追い抜く場面が印象的でした。澁刺とした若さを羨ましく思うと同時に、真剣勝負の中で最後まであきらめない両者の心の強さに刺激を受けました。

しかし何とんでも理科の教員である私が、一番ショックを受けたニュースが、1月1日の朝日新聞2面の記事です。

この50年ほどで世界の人口が約2倍に増えたことを受け、「明日もこの星で」という特集です。今後、人類が今の生活を維持するなら、必要な食料や水を得るには「地球1.6個分の自然資源が必要」だといいます。世界の人々がアメリカ人と同じ生活をすると地球5個分、日本人と同じなら2.8個分必要ということです。

今のコロナ問題も、人間が自然破壊や温暖化で野生動物を追い詰めた結果、野生動物と共存していたウイルスが人間社会に入り込み、密集した都市から世界の隅々に広がったと考えられています。この記事は、人間の大量消費、環境破壊に対する警告が「コロナ禍」であると結んでいます。

これまで人類は様々な疫病を乗り越えてきました。たぶんこの新型コロナも科学技術の力でワクチンや治療薬を開発し、いずれは収束させられると思われまゝす。しかし、私達の生活においては、最近聞かれる「ニューノーマル」という言葉が示すように、収束後はこれまでと違った新しい日常となる気がします。具体的には、離れた場所で情報をやり取りできるオンラインが普通に行われるようになり、働き方や学校教育、国際交流の仕方も変わるのではないのでしょうか。また、最近、海洋プラスチックゴミの問題もあり、レジ袋有料化なども始まりましたが、環境への配慮や、エネルギー問題にも新たな取組がなされると思います。

現在、突然仕事を失い路上生活を余儀なくされるなど、日々生きることができるとかどうかの瀬戸際にある人々もいます。人類の存続とすることを考えた時、私達一人ひとりが今までの生活をもう一度見直すとともに、今世の中で起きている事に関心を持ち、理解し、自分のできる小さな事をしてゆく必要を強く感じます。

このコロナ禍は、地球環境に対する人類の影響の大きさを改めて示したと言えると思います。

最後に、多くの3年生諸君は今週末から、受験の最初の関門である共通テストに臨みます。3年間この本荘高校で学び、努力して得たものは、ここぞという場面で必ず力を発揮させてくれるはずです。全力を尽くして落ち着いて臨んでください。

3階の黒板に「希望と勇氣」と書いてありした。どのような苦しい状況でも希望を持ち、勇氣を持って前に踏み出すことが大切です。この言葉を忘れないでください。本高の先生方、後輩達も皆さんを応援しています。

1・2年生の皆さん、3学期は、今年度を締めくくり、新年度の飛躍につなげる大事な学期です。本高の伝統「右文尚武」を実現するために、勉強にも部活動にも悔いを残さぬよう、目の前の一日を大事にし、全力を尽くしてください。そして、誰にも恥じる事のない「正々堂々」とした行いをする事を期待します。

以上、3学期始業式の挨拶とします。